

# 夢塾だより

## ～ 「峠」 に 立 つ ～

(第65号) 令和4年12月23日

『人はいくつもの峠を越えながら年を重ねるものである。入学、就職、家族を持つ等々。そのたびに人との出合いを喜び、別れをいつくしむ時を迎える。その一つ一つが峠であって、一年の移ろいの中で見れば、大晦日から元旦にかけては、大勢の人が時同じく、過去から未来へ、大きな峠を越えていく』

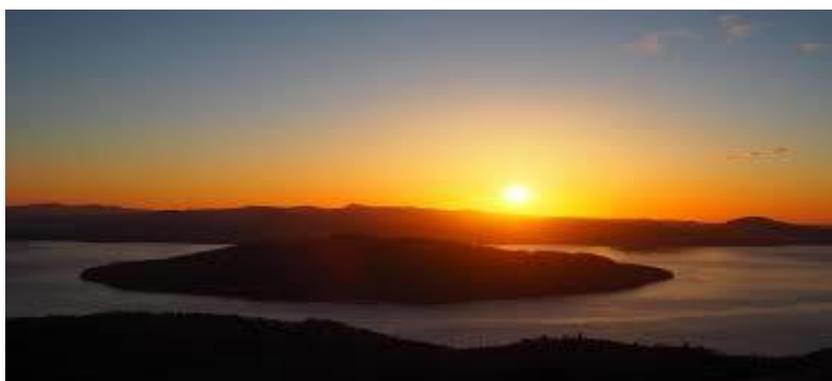
という言葉にであいました。さらに続きます。

『この1年を振り返れば、自分の境遇、日本の変化にも驚かされるが、世界では望まぬ戦端が開かれ、痛ましい1年であった。世界がかつてない剣俊(けんしゅん)な「峠」に立たされているのが今ともいえよう。・・・ただ、人間は弱く愚かな存在ではない。古今東西の衆知を集め、正しい選択をすれば必ず新たな繁栄の一步が踏み出せる。人間の可能性こそ希望であり、恐れてはならない。立ちすくむこともなく、過去を省み、未来に挑むことだ』

重苦しかった年の、鬱積した気分を吹き飛ばして勇気づけられるこの言葉こそ、今年を締めくくる言葉にしようと思います。

日本漢字能力協会の今年を象徴する漢字は『戦』でした。収束の糸口も見えないウクライナへ侵攻を痛ましく思います。ただ、目を転じてみると『熱戦』、比嘉一貴選手の男子ゴルフ賞金王。ソフトバンク東浜巨投手のノーヒットノーラン。サッカーワールドカップの堂安律選手の活躍。いいこともたくさんありました。

夢塾の生徒は、球陽中学1年生の安里昌朔君が二学期末試験の総合席次で学年1位。球陽中学3年の佐藤七海さんが学力推移テストで学年1位になりました。また、球陽高校3年生の桑江陽奈汰君が校内意見文発表会で、準優勝しました。



これからも切磋琢磨、頑張ってもらいたいと願っています。

皆様にとりまして来年が素晴らしい年になることを念願しております。